

松本市森林再生市民会議 第5回運営委員会 議事録要約書

日時 令和5年3月14日（火）

午後7時～9時

場所 松本市勤労者福祉センター3階
3-1会議室

～ 議事概要 ～

■会議事項

(1) 第3回イベントの報告

- 以下の内容で実施。
 - ・日時：令和5年2月18日（土）12：15～17：30
 - ・場所：木質バイオマスチップボイラー施設（竜島温泉）
木造施設（塩尻市北部交流センター えんてらす）
 - ・参加者：13名

※詳細は資料1-1、資料1-2参照

(2) フォーラムの準備状況

- フォーラムの開催方針は、以下のとおり。
 - ・第1部を「物の活用」、第2部を「場としての活用」とし、2つを合わせて松本の森林をどうやって活用していくかというテーマで参加者からアイデアを引き出す。
 - ・結論としてまとまらなくてもよく、多様で様々なアイデアを参加者から引き出すことに重点を置く。
 - ・第1部と第2部間の休憩時間は、第1部のグループワークで話し足りなかった部分について議論を深め、第2部に向けて内容を深めるような場にする。
 - ・グループワークでの意見交換になるべく時間を確保したいため、自己紹介シートと付箋を予め参加者に配っておく。自己紹介は自己紹介シートに挙げられた項目に留め、グループワーク前にも思いついたアイデア等を付箋に書いてもらうようにする。
 - ・様々なアイデアの中には「森林を活かさない」、「自然に任せる」といった内容が出てくることもあり得る。あまり委員が思う方向性に誘導するのではなく、グループワークの中では様々な意見やアイデアを率直に引き出すようにする。
 - ・YouTube配信は、現段階からライブ配信の準備を整えるのは難しいため、開催状況を録画しアーカイブ配信の準備を整えることとする。
 - ・参加者の意識を第1部と第2部のテーマに集中させるため、関連資料（書籍、パンフレット等）の展示は行わない。代わりに来年度以降、松本市立図書館との連携による松本市森林再生市民会議の特設コーナーの設置を検討する。

(3) アンケートについて

- アンケートについて改めて担当委員（清水副委員長）から市へヒアリングし、結果を委員に報告する。主なヒアリング内容は、以下のとおり。
 - ・ どういったことを松本市は知りたいのか。
 - ・ どういった理由で森林と人との関係が疎遠になり、この市民会議を立ち上げることになったのか。

(4) 令和5年度の取り組み

- 年度初めの次の運営委員会では、徹底的に令和5年度に実施する内容（特に実施項目と担当者）を決める場とする。
- 令和5年度はビジョン素案を作成し、素案に対するフィードバックを受けて最終年度（令和6年度）にブラッシュアップが進んでいくという流れになると想定される。
- その流れの中で令和5年度は、素案を作るために何を論点とすべきかを整理することが第1回目の運営委員会ですべきこととなる。
- その論点を整理した上で、整理した内容を議論するためにはどういったプロセスやアプローチが必要かという流れとなり、そのアプローチとしてイベント等の内容を検討する流れになる。
- 今年度はこの運営委員会にとっての森林再生市民会議だったので、この環を市民へ広げていくことを次年度は意識してやっていく必要がある。この運営委員会の外側で市民の自発的な行動があれば積極的に取り上げていくという取組を行っていった方が良く、市民が森林再生市民会議に加わっていただくことを意識して運営することが大切である。

※令和5年度のスケジュール（案）、3か年の計画は、資料3参照

■その他

- 森林ビジョン策定に関連する松本市関係部署の情報は事務局からなるべくリアルタイムで委員へ提供する。
- 一方で、松本市外部の活動で役に立ちそうな情報は、委員も積極的に情報提供するよう心掛ける。

議事録要約

1. 開会

(市)

只今から第5回目の運営委員会を開催する。本日はお忙しいところ担当委員の皆様にはご参加いただき、お礼申し上げます。今週末にはフォーラムを控え、先週はフォーラム担当委員と登壇者の方々を交えて打合せを行っていただいたところであり、この委員会でのご意見も踏まえながらフォーラム開催に繋げていければありがたい。それでは、三木委員長からご挨拶願いたい。

2. 委員長あいさつ

(三木委員長)

年度末のお忙しいところご参加いただき、お礼申し上げます。効率よく議事を進行していければと思うので、ご協力をお願いしたい。

3. 会議事項

(1) 第3回イベントの報告

(三木委員長)

第3回イベントについて、事務局から簡潔に説明をお願いしたい。

(市)

第3回イベントの開催概要について報告させていただく。

※資料 1-1・資料 1-2 の説明（省略）

(三木委員長)

第3回イベントの担当委員としては、時間に対して内容が詰まり過ぎの感があった。天候があまり良くなく移動時間が長かったことも影響していたが、時間どおりに収めようとして討論の時間が十分に取れなかった。移動途中のバスでは、バスの構造上マイクを車内全体に回すことができなかったため、参加者相互の意見交換の点で不十分さを残した。担当委員が参加者の座席の間に均等に入って意見を聞いたりすればよかったと後になって思ったが、その場ではそこまで知恵が回らなかった。少しもったいなかったと思っている。

内容自体は、市民が普段接することがあまりない木質バイオマスチップボイラー施設や木造公共建築施設を見学でき、良かったと思っている。

(小穴委員)

「えんてらす」は初めて訪れたが、勉強に励む学生さんもたくさんいて、ああいう雰囲気の施設なら勉強もはかどるなと感じた。竜島温泉のチップボイラーは、燃料となるチップも直接触らせてもらったりして大変勉強になった。

(大田委員)

両方の施設ともこれまで知らなかったのので、参加者の方々と同じ目線で参加させていただき、

感想には共感する部分も多かった。例えばチップボイラーについては、将来自分の身近な生活の中に実際に取り入れていくことができるのか、なかなかうまくイメージできないところもあった。

参加者の感想を聞いている中で、イベントのゴールについては参加者の方々にはまだうまく伝わっていないと感じた。今年度が終わるタイミングで振り返りながら、今後2年間で具体的なゴールの形を整理していきたい。

(清水副委員長)

今回は出席できなかったが、資料を見ていると質問内容がプロっぽいものも多いので、参加者の属性について興味がある。

(市)

参加者の属性について詳細は分からない。たしかに参加者の中には熱心な方がいらっしまった。

(三木委員長)

難しいところではあるが、割と施設に詳しい参加者が先に質問してしまって、あまり詳しくない参加者の質問がなかなか出てこなかったという状況は生じた。

(小山委員)

資料にある感想を見させていただくと、こういう活動を見つけたら絶対に参加するという方が何名かお見えになっていたようだ。さらに、グループトークの様子を見ていると、業界関係者とか、セミプロのような方が話しているような様子が散見される。「市から開示されていない情報についてこの場で聞いてみよう」という気持ちの方が何名かいらっしまったのだと思う。ただ、それが全員という訳でもないようなので、それほど大事（おおごと）として捉える必要もないのではないか。

(三木委員長)

コアな方々にも情報が届き始めたという現れか。効果が出てきていると捉えてよいのではないか。

(小山委員)

イベントを3回やってみて、やっと周知されてきたということか。そういう意味ではこれからがビジョン策定に向けての実質的なスタートになると思う。やっここでフォーラムの入口を委員間で共有できるような気がする。

(清水副委員長)

木質エネルギーについては、ゴールはまだ全然見えていない。燃やすことの他に蓄電池の利用がヨーロッパなどではメインになってきていて、日本がどちらに振れるかまだ読み切れないところがある。資源エネルギー庁が木質のベンチをつくるのに一生懸命で、そちらに行くのではないかと思っている。木質建築物も今は3Dプリンターで造れるようになってきている。

(小山委員)

まだそんなに細かいところから始めなくても、もっと全体的なところから取り掛かれば良いのではないか。

(香山委員)

市民会議がいったいどういったものなのかを参加者にうまく周知しないと、ただのイベントになってしまう。どうすればうまく伝わるのか、イベントをやりながら工夫していけばよいが、イベントが市民会議とどのような関連性があり、森林ビジョンの策定にどのように繋がっていくのかということに参加者に通じるようにしなければならない。

(2) フォーラムの準備状況

(三木委員長)

準備状況について、事務局から説明願いたい。

(市)

フォーラムの準備状況について説明させていただく。

※資料2の説明(省略)

(三木委員長)

補足すると、数日前に登壇者の方々とグループワークの司会役の委員を交え簡単な打合せを行った。第1部が物の活用、第2部が場としての活用ということで、2つを合わせると松本の森林をどうやって活用していくかという点について皆でアイデアを出せればと思っている。特にトークセッションのところでは、あまり話がまとまらなくても良いと思っている。重要なのはフロアの皆さんと一緒に、「こんなことに使えたらいいよね」とか「こんなふうに使えないかな」という話が沸き起こってくれば嬉しい。出演者には自身の経験を話してもらうが、「こういうふうな使い方しなければならない」ということではなくて、「こんなことができれば面白いだろうな」という視点で話してもらえればありがたいということを伝えた。今回のフォーラムでは、松本の森林を活かしていく上での色々な意見が出てくれば良いと思っている。最後にクロージングの時間を設けているが、「こういうふうな方向で使っていこう」ということを今回は求めなくても良いのかなと思っている。2~3年目のフォーラムでは最終的な形に結びつけていかなければならないが、今年はまだ1年目なので、意見がたくさん出てくれば出てくるだけ良いかと思っている。グループワークでは、委員の皆さんには進行をお願いすることになるので、色々な意見を引き出していきたい。

(渡辺委員)

グループワークの中身がまだあまりうまくイメージできていなくて、トークセッションをするのみなのか、それとも、KJ法のようにテーブルを囲んで模造紙を開いて付箋でアイデア出しといったことをするのか、具体的な内容を知りたい。私は後者が良いと思っている。言葉だけだと場

を繋ぐのも難しく、アイデアも広がりにくい。せっかく色々な人が集まってアイデア出しをするに当たって、打ち解けやすく話しやすい雰囲気を作るのは大事だと思う。これまでのイベントを通して参加者同士の関係性をみていると、もう少し和やかな空気を運営側が作って繋がりが増えていくような工夫ができれば嬉しい。例えば、伊那の方では「フォレストカレッジ」という取組が行われているが、一緒にみんなでやっていくという気持ちが強い方が、良いアイデアとかこれからの未来につながっていくと思う。

(三木委員長)

指摘していただいた点は、実は先日の打合せでも話題になっている。自己紹介を始めると長くなる人が出てきて、せっかくアイデアを出すための30分の時間が自己紹介で終わってしまうのは困る。もちろん、どこの誰だかわからない人と自由に話してほしいといっても難しいので自己紹介は必要だが、時間との兼ね合いの問題がある。アイデアを付箋に貼っていくという方法も考えているが、話し合いではなく書くことに集中してしまうという状況は避けたい。時間も限られているのでこのあたりのバランスが難しく、どういうふうにやっていくと一番良い比率でできるのか悩みではある。何か良いアイデアはあるか。

(小山委員)

グループワークで求めるものは基本的にブレインストーミングだとした時に、第1部と第2部はどういった位置付けになるのか実はよく分かっていない。私がこのセッションを組むのなら、第1部と第2部を並行させる。参加者の方々にはどちらか興味のあるセッションに参加してもらい、完全に2ブロックに独立分離させてしまう。グループワークで怖いのは、トークセッションへの質問で時間を使い切ってしまうという事態である。第1部と第2部を並行させると時間を2倍使えることになるので、このような事態は回避できる。また、休憩で区切りを入れることで、その後のグループワークでは登壇者への質問はなしにして話し合いに集中するという流れにもしやすい。それぞれのトークセッションに参加した方はもう一方のトークセッションの内容が絶対に気になるので、もう一方のトークセッションの内容を確認できる時間を設けると良い。書くのは付箋ではなくても、書きたいことを各自が直接書いていく方式でも良い。この方式を採用すると質問しづらくなるという効果もある。終わったら書いた内容を共有すれば良い。時間の余裕がないのなら、全部のセッションに参加者を一様に参加させないという方法もある。

(三木委員長)

物(第1部)と場(第2部)のセッションに参加者が半々に分けられると良いが。

(小山委員)

均等になる必要はないのでは。

(菊地委員)

現状は、プログラムは一般には公開されていない段階か。市役所のホームページにはタイムテーブルまでは掲示されていないか。

(市)

タイムテーブルは当日のスケジュールとして分単位でホームページに示されている。

(菊地委員)

物（第1部）と場（第2部）というそれぞれのテーマに対して興味のある方がいらっしゃると思うが、プログラムとして1部、2部と示された上で、両方の話が聞けると思って参加された方が数名でもいらっしゃるとしたら、「どちらかしか話は聞けない。聞けなかった片方の話は後からお伝えする」とアナウンスした場合に、「どちらも等しく聞きたかった」となった時の対応はどうするのか気になる。

小山委員のご提案も最もであるとお聞きしていたが、プログラムが公開されているという現状では、流れを今から変えるのは難しいというのが正直なところである。

今年度のフォーラムに関しては、“森林”というものに対して多様な見方を提供するという意味でも、全参加者に両方のテーマに参加していただくというのが良いと思っている。

(清水副委員長)

基本的に第1部と第2部を共通の情報として繋げてもらえれば嬉しい。山というのは使って美しくするところなので、第1部と第2部のテーマは別々に切り離されている訳ではなく、市民の森は近場にあり使うことで山が良くなるのが前提なので、そういった視点で捉えられると視点が広がる。

(菊地委員)

清水副委員長から Messenger で投稿された「フォーラム全体の大テーマは何なのか」という問い掛けに対して、担当委員として私はまだ回答できていない。三木委員長からは松本市の「森林の活かし方」として仮にテーマを設定していただいたと思っている。清水副委員長から先程あった「森は使うことで美しくなる」ということに対して、その使い方を物と場の2側面から考える場にするという説明をフォーラム冒頭しておくことが大切だと思う。

(小山委員)

次に鍵になるのは我々にとって何が残るのか、委員は何を持ち帰るのか。そこがグループワークの部分になる。グループワークでどういったゴールを設定するのか、その交通整理をこの場でやっておく必要がある。

「こんなふうに見えるのでは」というアイデアを我々はできる限り多く欲しい。グループワークの前半ではそのことを伝えるサジェスションを全体にしなければならない。後半では「こんな場があったら幸せ」ということを共通理解にすることが必要である。

それと、1部と2部のグループワークは同じ人でやるのか、それとも違う人でやるのか。それによってタイムスケジュールも変わってくる。

(三木委員長)

第1部と第2部でメンバーを変えると、第2部はまた自己紹介から始まって時間が掛かるので、同じメンバーで行って第2部では第1部で打ち解けた雰囲気の中でより議論を深めていただければとイメージしている。

(香山委員)

そもそもプログラムが公表されているので、流れは変えないということかと思う。ただ、第1部・第2部ということで分かれているものの、明確に分けるのは難しい。一応の切り口として「物」と「場」を取り上げつつも、たぶん流れとしては「森林をどうやって活用していくのか」ということに対して第1部から第2部へ段々盛り上がっていくようなことになれば良い。

それから、第1部と第2部の間の休憩時間が長いと面白いような気がする。休憩時間の中でお互い入り乱れて意見交換できるので、第2部の開始時にはテンションが上った状態で始められるといった状況になれば面白い。

(小山委員)

第2部の登壇者の鈴木さんと佐藤さんはフォーラムの最初から参加されるのか。第1部から参加者として加わってもらった方が面白い。同じように、第1部の登壇者の原さんと小池さんも第2部の参加者として入ってもらった方が内容が深まる。

それから、先ほど香山委員から話のあった休憩時間での意見の深まりのことを考えると、第1部と第2部で参加者を入れ替えたほうが効果的であると考え。「さっきのグループではこんな話があって…」というところから始められ、第1部と第2部は並行ではなくステップアップになる。それと、メンバーが同じだと話題が尽きてしまう可能性もある。

私や香山委員はどのグループにも入らず、全体を見ながら盛り上げるというのも良いかもしれない。

(三木委員長)

第1部と第2部それぞれで、グループワーク全体での情報共有の時間を取ってある。メンバーを混ぜるのであれば、この時間を短くしてその分をグループワークに充てることはできる。

それから、自己紹介が長くなると困るので、予め項目を決めた自己紹介カードを作っておいて参加者に書いてもらうのはどうか。また、トークセッションの話を聞きながら思いついたことをその場で付箋に書き留めておけるように、予め付箋を配っておくというのはどうか。グループワークの時には、トークセッションの時に思い付いて書き留めたことも含めて付箋を貼ってもらうという流れになれば。

(小山委員)

それなら、自己紹介シートや付箋はフォーラムが始まる前に受付で配ってはどうか。グループワークの時にはお互い自己紹介シートを見せ合う。それで時間短縮できる。

(清水副委員長)

トークセッションの登壇者はどういう位置付けになるのか。

(菊地委員)

話題提供者として、グループワークへのきっかけ出しだと認識している。

(清水副委員長)

フォーラムで明確な結果は出さなくても良いが、菊地委員からあった冒頭の投げ掛けと実施後の結果が何かしら繋がるようなまとめを要望したい。

(菊地委員)

この森林再生市民会議が単年度で完結し、その締めめのフォーラムという位置付けであれば結論を導きたいところであるが、年度またぎで次年度以降も熟成させていく流れの中での1年目ということなので、最終的な結論を導き出すというよりは、結論に繋がっていくようなアイデアが多様に出てくるのが今回のフォーラムのゴールという判断をしている。

(清水副委員長)

そうであれば、「3部作の最初の1ページ」とか、参加者に対してフォーラムの冒頭にエクスキューズが必要かもしれない。市の方は今のような認識でよいか。

(市)

3年間かけてビジョンに繋げていくという流れの中で、今年度はフォーラムで市民の皆様から意見やアイデアを出していただき、来年度以降に繋げていくという方向性で問題ないという認識である。

(清水副委員長)

環境アセスメントセンターは承知済みか。

(環境アセスメントセンター)

イメージとして、1年目は松本市の現状等に対して意見をたくさん出していただき、2年目はそれらをまとめつつ、ビジョンの形が大きく見えてきている状態になって、3年目はビジョン(案)を市民にお披露目しながら最後に意見をもらうといった流れの理解でいる。

(三木委員長)

「松本市の森林を活かす」というテーマで今回のフォーラムは行うこととなるが、このテーマが市民の中でコンセンサスになるか分からないところもあって、ひょっとしたら森林を活かさない、自然に任せるという選択肢もあり得る。あまり最初から結論を決められる訳ではなく、我々が思う方向性に誘導したくもない。グループワークの中で出てきた意見が我々の頭を悩ませるものであっても、それが市民の率直な意見であれば全然構わない。むしろ予定調和的でなくて良い。それでこそフォーラムをやった価値がある。不安であると同時に期待もしている。

(渡辺委員)

可能であればフォーラムの YouTube 配信ができれば。時間などの制約で直接は参加できないが内容を聞いてみたい人向けに、後日視聴するという選択肢も含め提供できる。それから、フォーラムの最後に集合写真を撮っておくと、参加者の顔も分かり、後々何かの素材として活用したりもできる。それから、森とか街づくりとか関連事項の書籍や冊子、チラシ等を参加者が閲覧できるように置いておくのも良い。誘導ではないがアイデアやきっかけ作りの一つとして参加者の方々に提供できたら面白いのでは。

(小穴委員)

私が活動している NPO の冊子は提供できる。

(小山委員)

今年そういったことが必要なのだろうか。まず今年はキックオフで、渡辺委員からの提案は来年度のイベント等に組み込んでいければと思う。今年のフォーラムでは「あの人達が委員だからこういう資料を展示しているんだよね」とは思われたい方が良く思う。

(清水副委員長)

森林のデザイン関連の書籍とか展示したいと思うものは、いくつも思いつく。

(三木委員長)

準備段階でトイレ休憩は 15 分設けている。その時間で、グループワークでは話し足りなかったことで盛り上がりが良いという意図もある。その休憩時間に書籍などの資料が置いてあると、そちらに意識が分散してしまってせっかくの休憩時間が活かせないか。フォーラム終了後に時間に余裕のある方に見てもらおうということにすれば良いのではないか。出すタイミングの問題か。

(小山委員)

休憩時間を挟んだ後の第 2 部は、それに集中したいと思っている。休憩時間で展示物はむしろ出さないようにして、来年度のイベントに向けて温存しておきたい。隠し玉を持っておいたほうが面白いとも思うし、今回のフォーラムで色々展示物も出して参加者が疲れないほうが良い。今回のフォーラムの第 1 部と第 2 部で導き出されるテーマを元に、委員が見てほしいと思う資料を出し合って、来年度にそれらを展示するといったイベントを企画するのも面白い。

(三木委員長)

渡辺委員から出た集合写真の撮影は、一番最後に組み込みたい。YouTube 配信は今回の内容では難しいと思っている。おそらく話がまとまらないので、フォーラムの雰囲気伝える映像は撮れるかもしれないが、話自体を撮って公開できるかというところ少し心許ない。ただ、我々委員にも後々有用にはなると思うので、可能であればトークセッションの部分はビデオで撮っていただきたい。仕上がりを見てさらに登壇者の許可が得られれば、YouTube 配信も改めて考えたい。

書籍やパンフレットの展示は今回のフォーラム会場では難しいが、例えば松本市立図書館など

にご協力いただき、松本市森林再生市民会議関連のコーナーを設けていただいて、我々委員が薦めたい書籍やパンフレット等の資料を置いていただくというのは、来年度やってみると面白いかもしれない。

(小山委員)

松本市立図書館に希望の書籍がなくても、県内の図書館の間で相互貸借するしくみがある。

(菊地委員)

YouTube 配信について、出演者の承諾を取り付ける問題もあるので今からライブ配信の準備を整えるのは難しいかもしれない。一方で、トークセッションの話題提供の部分に関しては、市民が興味を持った時に YouTube を見ることで、それをきっかけにして新しいアイデアが生み出されていくということをイメージすると、後日配信することには意味がある。それに備えて録画はしておいたほうが良いのではないかな。

(小山委員)

この時間配分はライブ配信向きではない。グループワークと休憩時間は、ライブ配信を見ている人にとってはつまらない時間になる。今回の内容はアーカイブ配信の方が向いている。

(三木委員長)

フォーラム後に改めて話をして、それを録画してアーカイブ配信するという選択肢もある。敢えて分けて収録しても見やすいものが作れる可能性がある。

(清水副委員長)

知り合いの県職員から、松本市でのこの取組については承知していないと聞いたのだが、県への周知などは行っているのか。

(市)

お声掛けしている。

(菊地委員)

先ほど三木委員長からも松本市立図書館との連携・協力依頼についてご提案があったが、市役所庁内で普段は関係しない部署にも、このフォーラムに参加してもらうことで、今後連携を取りながら取組を進めていけるという広がりを持つのではないだろうか。

(3) アンケート

(清水副委員長)

アンケートについて、市へは発注の理由を、受注者の環境アセスメントセンターには納品の内容をヒアリングした。その結果、まだそれほど固まっていないということであるので、そこを固めないとアンケートでは何を聞きたいかが重要なので、改めて市役所に伺ってヒアリングし、結

果は皆さんと共有したい。

それから、“先生”という人物はこの会議ではなくしたい。小山委員や三木委員長は職業上「先生」ではあるが、基本的には全員“さん”付けでフラットにしたい。また、委員間の仲間意識を醸成するためにも会議の際は円卓にして欲しい。それと、Messengerでいつの間にか何かが決まっているという流れはなしにしたい。どんな話がされてアンケートが作られていくのかという過程は、税金が使われているということからも全て開示しなければならないと思っている。

(市)

アンケートの目的としては、ビジョンに市民の声を反映させるということがある。イベントやフォーラムでも参加者の声をビジョンに反映させていく訳であるが、それだけでは網羅しきれない部分をアンケートで補完する意味もある。アンケートで様々な市民に問い掛け、その回答をビジョンに反映していくという狙いがある。ただ、その内容についてはまだ決まっていないため、委員の皆様から色々なお知恵を頂きながら固めていきたい。

(清水副委員長)

農林センサスのレベルでやるかどうかとか、どういったことを松本市は知りたいのかとか、そこが一番大事である。政策の中で「こういうことを知らなければならない」といったことがあれば是非ともお尋ねしたい。こちらで事前に質問状を作りたい。今回のように大規模でアンケートを実施するのは滅多にないことなのでしっかりやりたい。何を一番知りたいのか、どういった理由で森林と人との縁が切れそうになってこの市民会議を立ち上げる仕儀になったのか、そういったことをヒアリングしたい。

(菊地委員)

アンケートの Messenger グループは、担当委員と事務局で編成されているのか。そうであれば、先ほど清水副委員長からあった情報共有の場はどこになるのか。

(小山委員)

清水副委員長からあった情報共有の場は、アンケート用の Messenger グループではなく全委員が参加する Messenger グループで取り上げればよいのでは。事務的な作業はアンケート用の Messenger グループで行えば良い。

(清水副委員長)

小山委員のご意見に沿いたい。経過は大切なので、その都度開示するようにしたい。

(4) 令和5年度取組

(市)

資料はあくまで令和5年度の予算編成用で、内容については決定ではなく概ねこの程度ということでご認識いただきたい。

※資料3の説明(省略)

(三木委員長)

資料には予算が必要な項目が載っているだけで、例えば先ほど話した図書館との連携やYouTube配信の取組はここには載っていない。資料にある内容だけ取り組むのではないという認識は委員全員が持っておいた方がよい。例えば、資料ではフォーラムが3月になっているが秋くらいになっても良いし、イベントも、現場実施のもの以外にも室内でのワークショップ的な内容も該当する。どういった内容にしていくのか知恵を使わなければならない部分という認識である。

前回の運営委員会では、私から「イベントやアンケートとは別に、ステークホルダーには直接ヒアリングしたい」ということを“御用聞き”といった表現で申し上げた。これに関しては令和5年度に私自身が行いたい。

(小山委員)

今回のフォーラムは色々な意見出しの場で、次回の運営委員会は「今年度これをやろう」といったスケジュールの大枠を決める場であるということを決めたほうがよい。アンケートの実施など流動的に動く取組はあるものの、年度初めの次の運営委員会では、徹底的に令和5年度に実施する内容（特に実施項目と担当者）を決める場にしてはどうか。今回のように色々な項目を議題とするのではなくて、一つに絞ったほうが良い。

(三木委員長)

一つのテーマで1回の委員会を実施できた方が、時間も有効に使えるかと思う。

(香山委員)

今回は年度初めなので、あまり細かなスケジュールに囚われない方がよい。年度のまとめりはフォーラムを軸に据えると考えやすいと思っており、2年目のフォーラムは重要になってくるため、そこに向けた流れを意識した上で、次回の運営委員会ではこういった形でビジョンを作っていくのかに的を絞るのが良いのではないか。一度動き出してしまうと細々としたイベントの調整等に時間が割かれるので、まずはそういった個別の細かい内容は置いておいた方がよいと考えている。

(菊地委員)

今年度の始まり方を振り返ると、予算を消化するために「3回イベントをやらないといけない」「フォーラムをやらないといけない」というところからスタートしたという印象を持っている。イベントをやるのが目的化してしまった部分が多くなったが本来は手段のはずであって、来年度は同じ轍を踏みたくない。一つのベンチマークになるのがフォーラムで、来年度のフォーラムでは素案を市民に示すということを今のこの段階で決めておいた方がよいと思っている。来年度は素案に対するフィードバックを受けて最終年度にブラッシュアップが進んでいき、「これが松本市の森林ビジョンです」というふうに示せるものが出てくるというイメージである。素案を作るために何を論点とすべきかを整理することが来年度1回目の運営委員会すべきことであると思う。その論点を整理した上で、整理した内容を議論するためにはどういったプロセスが必要か、

こういったアプローチが適切かという話がしたい。そのアプローチとしてイベントが適切だとなって初めてイベントの内容を検討する流れになる。イベントではなくワークショップが向いていると思えばワークショップを行えば良いし、有識者の講演を聞くのが論点に対してふさわしい方法なら講演会を開催すれば良い。HOWの部分は一番最後でよくて、WHYの部分をまず年度初めに話したい。

清水副委員長からあった円卓の提案はそのとおりだと思っている。今年度はこの運営委員会にとっての森林再生市民会議だったので、この環を市民へ広げていくことを次年度は意識してやっていく必要がある。そのためにも森林再生市民会議運営委員会が考える論点は〇〇と〇〇と〇〇で、運営委員会としては論点を議論するアプローチを設定して進めていく。一方で、その外側で市民の自発的な行動として森林再生市民会議の動きがあれば積極的に取り上げていくという取組を行っていった方が良いし、さらに市民が円卓に加わっていただくことを促していくことが大切である。そこをこういった形で設計していくのかといった話も、合わせて年度初めにしていけると嬉しい。

(三木委員長)

我々がここで行っているのは運営委員会で、市民会議はこの運営委員会とは別に設けなければならない。それがフォーラムなのかイベントなのかは分からないが、このあたりの位置付けを来年度初めの運営委員会では話し合えればと思う。

(小山委員)

今年度は、私自身も含め委員のみで松本市の森林を理解するという認識ではなかったか。では今後ゴールに向けてどうするのか、三木委員長から提案のあった図書館との連携の取組は新しいブレイクスルーに繋がるのかなど、次回の運営委員会ではきちんと議論すればよいと思う。

私は委員のみ円卓になるだけでは嫌で、そこに事務局も含めたい。形式張らずテーマに向かって知恵を絞り出す場にしたい。

(三木委員長)

知恵を絞り出すのにふさわしい場の形が作れないか、市とも相談しながら検討したい。

4. その他

(小穴委員)

「ファシリテーター」とはどういう意味か。

(清水副委員長)

「会議や議論の際にグループがより協力し、共通の目的を理解し、目的の達成のために計画立案を支援する人のこと」とある。

(小穴委員)

それから「フォント」とはどういう意味か。

(菊地委員)

文字の種類のことを表している。こういった種類のフォントを使うかで読み手に与える印象も変わってくる。

(三木委員長)

あることを専門にしている人は、自分が使っている言葉は他の人も知っているとは無意識に思っているところがある。例えば、林業では「立米^{りゅうべい}」という単語を普通に使用するが、一般市民には意味が分からないのはもちろん、どんな文字を充てるのかすら分からない。ビジョンを作成し市民に対して説明していく際には、言葉の厳選も必要になってくる。

近々「上高地ビジョン」が更新されるということで、その骨子案が公開されている。関係部門や近隣部門の計画については、それらと乖離する森林ビジョンを作っても意味がないので、更新や策定の情報を寄せていただきたい。

(清水副委員長)

この市民会議の前身となる小山委員や香山委員が作成された報告書は、原点に立ち返る意味でも委員の皆さんには是非一度目を通してほしい。

(菊地委員)

三木委員長からあった周辺の情報提供は事務局の仕事かと思う。庁内の他部署の動きで関係ありそうな情報はなるべくリアルタイムに全体に共有いただきたい。

(小山委員)

その一方で、伊那市のフォレストカレッジなど外部の活動で役に立ちそうな情報提供は、委員が積極的に担って良いと思う。環境アセスメントセンターも守秘義務に触れない範囲で情報提供いただけるとありがたい。

(清水副委員長)

Facebookでの委員による情報発信が負担なら言ってほしい。こちらも分担できる場所はあると思う。

5. 閉会

(三木委員長)

仕事の都合等で、今回の香山委員のように、今後オンラインで参加される委員もあるかと思う。今回は音声をうまく集音できず香山委員には聞き取りづらい点もあったかと思うので、ハイブリッド開催も円滑に進められるよう改善できればと思う。今週末にはフォーラムも控えているので、よろしくお願ひしたい。

(市)

今週末はフォーラムを控え、新年度は新たな取組も始まる。引き続き皆様のご協力をお願いしたい。以上をもって第5回運営委員会を閉会とする。